

## 英雄ナポレオン・ボナパルト

ナポレオンってブランデーでしょうと若い後輩がいった。二の句がつけなかった。ショックである。今年（2021年）はナポレオン・ボナパルト没後200年にあたる。ナポレオンは1769年、コルシカ島の貴族の家柄に生まれた。先祖はイタリアのトスカーナ地方の貴族であった。

ナポレオンはフランス革命期の軍人であり革命家であり、フランス革命後の混乱した世相をうまく鎮め、次第に頭角を現し政権を樹立した。1804年国会の承認を得るとともに国民投票をへてフランス皇帝の地位を獲得した。

ナポレオンの人生は下世話な言い方をすると波乱にとんだというほかない。皇帝から一転、島流しの刑罰、捕虜、幽閉とすさまじく、天国と地獄を行き来していたかの印象である。

フォンテブローの別れとは、皇帝の座を退位したナポレオンがエルバ島に流される時、フォンテブロー宮殿の正面にある馬蹄形の階段にあるテラスから近衛兵に別れを告げたのである。



ナポレオン一世の戴冠式と皇妃ジョセフィーヌの戴冠 ルーブル

機会があってここを訪れたときフランス人のガイドは、テラスに案内しながら目の前の広い前庭を



兵に別れを告げた馬蹄形の階段のテラス

の帰国をしたナポレオン・ボナパルトの遺体が、巨大な赤茶色の石の棺に納められ安置してある。パリの凱旋門は世界一大きい。1806年ナポレオンが建設を始めたが、紆余曲折があって完成した凱旋門をくぐったのは棺に入ってだった。また小型凱旋門とも称すべきルーブル博物館に近い所

指さし“決別の前庭”だといいなながら、皆さんもナポレオンになった気持ちでテラスから手を振って見たらといわれ、兵を前にしたつもりで大きく手を振った。

アンヴァリッド廃兵院はルイ14世が傷病兵のために建てたドームを備えた立派な建物で、現在は中世の武具が沢山展示してある。この地下には1840年2月に流刑地の英国領セントヘレナ島から無言

に立つカルーゼルの門は、ナポレオンが造った。因みに現在フランス政府が贈る最高位の勲章は、レジオン・ドヌール勲章であるが、これはナポレオンが1802年に制定したものである。



アンヴァリッド廃兵院



パリの凱旋門



カルーゼルの門

才気煥発のナポレオンが残した言葉で「余の辞書には不可能はない」がよく知られているが、ナポレオンがエジプト遠征に行ったとき、麾下の兵たちを前にして、4千年前のファラオが造った巨大なピラミッドを指さし、「四千年の歴史が諸君を見ている」とフランス兵たちを鼓舞した言葉も勇壮で心にずっしりと響く言葉である。また軍事戦略に優れていたばかりではなく、学術的側面でのナポレオンの功績も大きい。特筆すべきは1778年、エジプトで軍事行動を起こすとき遠征隊に167人の科学芸術の学者集団を随行させたのである。1779年エジプトのロゼッタでフランス兵が日くありそうな石板を見つけ届けた。世にいう「ロゼッタストーン」である。石板にはヒエログリフ（古代エジプト語神聖文字）、デモテック（民衆文字）、ギリシャ文字の3種の文字が刻まれていた。未来の扉を開く重要な文物を見逃さぬ体制を配慮したのである。

後にフランス人のシャンポリオンによって石板の文字は解読され、以後古代エジプト語の膨大な記録が解明されることになる。ロゼッタストーンは発見したフランスから、戦争に敗れたためイギリスへ持ち去られ、現在はロンドンの大英博物館の至宝として展示されている。



ギザのピラミッドとスフィンクス（1981年）



ロンドン大英博物館蔵ロゼッタ石（1978年）



余談 ローマのボルゲーゼ美術館は絵画・彫刻の名品が数多く展示され、世界各国から訪れる人で終日賑わっている。展示物の中にカノーヴァ作“パオリーナ・ボルゲーゼの肖像”という寝台に横たわる裸婦の彫刻が真っ白な大理石に刻まれている。ナポレオン・ボナパルトの妹は美人の誉れが高く、イタリアの名門貴族であるカミッロ・ボルゲーゼ侯爵と結婚したが、彫刻のモデルが彼の妹ポーリーヌ・ボナパルトだといわれている。

ナポレオンの妹がモデル

(1982年)

先輩から“ナポレオンとマスコミの報道”について下記のような興味深い情報もらった。

「ナポレオン 下」エミール・ルートヴィヒ（北澤真木訳）講談社学術文庫より

ナポレオンのパリ帰還までの報道記事の論調の変化

「悪魔が流刑地を脱走……。コルシカの狼男カンヌに上陸……。虎がガップ（グルノーブル南東の町）に出現するも国王軍がこれを迎え撃つべく送られたので虎は山中で惨めなペテン師のごとく果てるであろう……。怪物は裏切りに乗じグルノーブルに到達……。暴君リヨンに立ち寄り全市は恐怖に覆われる……。ボナパルトは巨人のごとく大股でやってきたが、パリに入ることは決してないだろう……。ナポレオンは、明日、市門に到達……。陛下はフォンテーヌブローにおわす」

1815年3月20日、一発の砲弾も発射することなく、皇帝は13カ月前に去ったチュイルリーの階段を上がり、首都はナポレオン軍に占拠された。（2021年11月）